



「生涯学習課文化財保護担当」

多くの人たちが朝に夕に
見ている大山の中腹に位置
する雨降山大山寺が僧・良
弁によって開かれたのは、
勝宝7（755）年のこと
です。江戸時代には幕府の
保護のもと、江戸から4、
5日で往復できる距離か
ら、関東一円に「大山参り」
が盛んになり、各地から大
山に向かう道が開けまし
た。

市内を通る大山道は、藤
沢の四ッ谷から小和田・菱
沼・松林・室田・高田・香
川を通り、間門橋で小出川
を渡り寒川へ抜けます。田
村の渡しで相模川を渡り平
塚へ、そして伊勢原から大
山に至る道です。

今回は、大山道の松林・
室田・高田付近を紹介しま
す。沿道には今でも当時の
名残を見ることができ、
楽しい発見があります。

まずは、①長福寺から散
策をはじめましょう。



今回の発見！

大山道（松林・室田・
高田）を歩く

⑥六村学校の跡

明治6（1873）年、
赤羽根、高田、甘沼、
香川、西久保、内蔵の
6か村が、本在寺に正
常学舎を開校。後に高
田学校と改称し、明治
10（1877）年に本
在寺の北側に移転しま
した。



⑤杉崎家の 墓地の碑

水越家の前を西に向か
うと六地蔵があり、その
後ろに墓居が見えます。
この左手の墓地に神官・
杉崎鳥花と源田重徳坊の
句碑があります。鳥花の
句碑は茅村の作です。



④赤羽根・神明大神

治暦年間（1065～9）に、源義家
が勧請（*2）したのが起源といわれてい
ます。現在、元和7（1621）年～
昭和35（1960）年の横札23枚が
保存されています。

②松林村役場跡

明治22（1889）年4月、
小和田・菱沼・室田・高田・赤羽根・
甘沼・香川の7か村が合併して松
林村が誕生しました。
松林村役場は、大山道と室田新
道の角の菱沼分に分建てられました。
この辺りは菱沼・室田・赤羽根の
村境にあたるため、地域の人たちは
この場所を「境」がなまつた「サ
ツケイ」と呼んでいました。



⑦熊野神社

万治元（1658）年
に高田村の地頭・大岡忠
高（越前守忠相の父）が
紀州の熊野麻呂を勧請し
たとされ、社の前にはゆ
かりの手水石があります。
神社の社標は茅村の作です。



③水越家の長屋門

江戸時代に村役人を代々務めた水
越家の長屋門です。市内に残る数少
ない長屋門の一つで、元は茅葺き屋
根でした。直先には、茅村が描き、
兄が建てた父・一平の句碑があります。



①長福寺

菱沼山薬師院と号す
る真言宗の名刹。鎌倉
末期の創建で、明治の
神仏分離によって、赤
羽根の瑞蔵寺を合併し、
昭和47（1972）年
には現在の本堂が落成
しました。その門額は、
水越茅村（*1）の作です。



長福寺の門額



*1 水越茅村（1914～1985）……茅ヶ崎町（現・茅ヶ崎市）高田出身の書家。昭和34（1959）年に第2回毎日前衛書展で大賞を受賞。また、市内小学校の教員として地域に大きな功績を残した。
*2 勧請……神仏の分身・分霊を他の地に移して祭ること。